

前田忠弘教授年譜

略 歴

- 一九五四年二月一四日 兵庫県神戸市に生まれる
- 一九七二年三月 六甲高等学校卒業
- 一九七二年四月 甲南大学法学部入学
- 一九七六年三月 甲南大学法学部卒業
- 一九七六年四月 甲南大学大学院社会科学専攻修士課程入学
- 一九七八年三月 甲南大学大学院社会科学専攻修士課程修了
- 一九七八年四月 関西学院大学大学院法学研究科民刑事法専攻博士後期課程入学
- 一九八二年三月 関西学院大学大学院法学研究科民刑事法専攻博士後期課程単位取得退学
- 一九八二年四月 愛媛大学教育学部講師
- 一九八六年四月 愛媛大学教育学部助教授
- 一九九六年四月 愛媛大学教育学部教授
- 二〇〇一年四月 甲南大学法学部教授
- 二〇〇四年四月 甲南大学法学部長（二〇〇六年三月まで）
- 二〇〇五年四月 甲南大学大学院社会科学専攻主任（二〇〇六年三月まで）
- 二〇〇六年四月 甲南大学大学院社会科学専攻主任（二〇〇六年三月まで）
- 甲南大学学生部長（二〇〇八年三月まで）

二〇〇九年一〇月 マードック大学客員教授(二〇一〇年九月まで)
二〇一一年六月 大学企画室参与(二〇一二年三月まで)
二〇一二年三月 甲南大学学生部長(二〇一三年四月まで)
二〇一三年四月 甲南大学法学部長(二〇一五年三月まで)
二〇二〇年四月 甲南大学法学部長(二〇二一年三月まで)
二〇二二年三月 甲南大学定年退職

業 績

著書

- 一 刑事政策のすすめ 法律文化社(共著) 二〇〇三年
- 二 刑事政策がわかる 法律文化社(共著) 二〇一四年

論文

- 譜
- 一 「少年審判手続における弁護権保障と対審構造化」法と政治三〇巻一号(一九七九年)
 - 二 「少年審判と弁護権保障」『非行克服の現場と理論』三和書房(一九八〇年)
 - 三 「非行少年の手続と処遇」『現代刑法学原論』三省堂(一九八三年)

- 四 「受刑者の人権について―受刑者の外部交通（外部社会との接触）を中心として―」『社会科』学研究六号（一九八三年）
- 五 「少年事件の司法前処理について」愛媛大学教育学部紀要（人文・社会科学）一七卷（一九八五年）
- 六 「学校教育と非行」関西非行問題研究一〇号（一九八五年）
- 七 「学校生活と子供の人権―教師による所持品検査の合憲性に関するアメリカ合衆国連邦最高裁判所判決を中心として―」『社会科』学研究一〇号（一九八六年）
- 八 「デイバージョンに関する一考察―アメリカ合衆国における議論を中心として―」愛媛法学会雑誌一六卷三号（一九九〇年）
- 九 「社会記録の閲覧」刑法雑誌三二卷二号（一九九二年）
- 一〇 「憲法学習」『生活科・社会科の総合的展開』（一九九三年）
- 一一 「少年司法におけるダイヴァージョン・賠償命令」『世界諸国の少年法制』成文堂（一九九四年）
- 一二 「少年司法改革と社会記録の閲覧」愛媛法学会雑誌二二卷二号（一九九四年）
- 一三 「裁判所と事実認定手続」『少年司法と適正手続』成文堂（一九九八年）
- 一四 「学校における所持品検査をめぐる問題点」法律時報七〇卷八号（一九九八年）
- 一五 「少年法の動向―事実認定改革論議を中心として―」法の科学二七号（一九九八年）
- 一六 「検察官関与・対審構造化論の批判的検討」愛媛法学会雑誌二五卷三号（一九九九年）
- 一七 「ドメスティック・バイオレンス（DV）と刑法学の課題―被虐待女性の正当防衛に関する覚書」愛媛大学教育学部紀要（人文・社会科学）三三卷一号（二〇〇〇年）

- 一八 「ドメスティック・バイオレンスの犯罪化と刑事司法」 甲南法学四二巻三・四号（二〇〇二年）
- 一九 「少年刑事事件の量刑」『量刑法の総合的検討』成文堂（二〇〇五年）
- 二〇 「オーストラリアの少年法」『少年法の課題と展望・二巻』成文堂（二〇〇六年）
- 二一 「児童虐待の刑事対応」『刑事政策学の体系』法律文化社（二〇〇八年）
- 二二 「触法少年と少年法第二次改正」司法福祉学研究八号（二〇〇八年）
- 二三 「西オーストラリア州の量刑と犯罪者処遇」甲南法学五一巻四号（二〇一一年）
- 二四 「わが国における非行少年の地域社会への再統合の課題」『刑事法理論の探求と発見』成文堂（二〇一二年）
- 二五 「スウェーデンの少年司法」比較法研究七六号（二〇一四年）
- 二六 「刑事司法・刑事政策における福祉的支援」『浅田和茂先生古稀祝賀論文集下巻』成文堂（二〇一六年）
- 二七 「スウェーデン少年法制における司法と福祉」『新時代の比較少年法』成文堂（二〇一七年）
- 二八 「福祉につなぐための刑事施設医療のあり方」矯正講座三七号（二〇一八年）
- 二九 「オーストラリアにおける新しい刑事司法政策のアプローチ」『司法と福祉の連携の展開と課題』現代人文社（二〇一八年）
- 三〇 「刑の執行を終えて出所した人々の生活支援―地方公共団体と地域社会の挑戦―」兵庫県人権啓発協会研究紀要二〇輯（二〇一九年）
- 三一 「福祉につなぐための刑事施設医療のあり方―刑事司法・刑事政策学的視点から―」『刑事施設の医療をいかに改革するか』日本評論社（二〇二〇年）

その他

- 一 「リベラルな犯罪学の生と死（ジョン・F・ガリハー）」法と政治三一巻三・四号（一九八〇年）
- 二 「令状主義」『法学』法律文化社（一九八一年）
- 三 「ニュークリミノロジーの批判的検討（デイヴィッド・シッチャー）」法と政治三二巻三号（一九八一年）
- 四 「デイバージョンの期待と危険（ポール・ニジェルスキー）」甲南法学二三巻三・四号（一九八三年）
- 五 「実施中の少年デイバージョン制度―改革のためのいくつかの勧告（アンドリュー・W・マローン）」甲南法学二三巻三・四号（一九八三年）
- 六 「少年司法におけるデイバージョンに対する批判（ブルース・バリングトン他）」甲南法学二五巻一号（一九八四年）
- 七 「青少年政策と少年司法改革（ジム・カルビン他）」甲南法学二五巻二号（一九八五年）
- 八 「外部交通」『刑事政策』蒼林社（一九八五年）
- 九 「包み隠された少年統制制度（イラ・シュバルツ他）」甲南法学二六巻一号（一九八五年）
- 一〇 「少年裁判所における少年陪審（フィリップ・レイチェル他）」甲南法学二七巻一号（一九八六年）
- 一一 「教職員の個人責任（刑事責任）」『学校事故の法律実務』新日本法規（一九八七年）
- 一二 「少年と刑法」『刑法と現代社会』嵯峨野書院（一九八七年）
- 一三 「デイバージョンに関する諸研究の検討（ケニス・ポーク）」甲南法学二八巻三号（一九八八年）
- 一四 「複線化、私化と少年司法におけるデイバージョンの将来―社会内処遇に対する危険（ダニエル・カラン）」甲南法学二九巻三・四号（一九八九年）

- 一五 「少年司法運営に関する国連最低基準規則」『少年司法と国際準則―非行と子供の人權』三省堂（一九九一年）
- 一六 「自由を奪われた少年の保護に関する国連規則」『少年司法と国際準則―非行と子供の人權』三省堂（一九九一年）
- 一七 「刑事システムのキーワード―広くて深い世界が見えてくる（特集）」法学セミナー四三九号（一九九一年）
- 一八 「死刑廃止を求める刑事法研究者意見集（特別企画 死刑廃止を考える）」法学セミナー四六六号（一九九三年）
- 一九 「青少年の非行・犯罪とその対策」『新刑事政策入門』青林書院（一九九五年）
- 二〇 「年齢と犯罪」『新刑事政策入門』青林書院（一九九五年）
- 二一 「学界回顧・刑事政策」法律時報六七卷二三号（一九九五年）
- 二二 「書評」澤登俊雄著『少年法入門』國學院法学三三卷三号（一九九五年）
- 二三 「新聞の犯罪報道を読む」『学びのネットワーク』有信堂（一九九六年）
- 二四 「学界回顧・刑事政策」法律時報六八卷一三号（一九九六年）
- 二五 「学界回顧・刑事政策」法律時報六九卷一三号（一九九七年）
- 二六 「少年法の理念と手続き―成人の刑事手続きとどこが、そしてなぜ異なるのか―」法学セミナー五一七号（一九九八年）
- 二七 「少年に対する死刑適用の是非」『少年法判例百選』有斐閣（一九九八年）
- 二八 「少年司法と適正手続（ワークショップ）」刑法雑誌三七卷三号（一九九八年）

譜

年

- 二九 「書評」 守屋克彦著『現代の非行と少年審判』季刊刑事弁護一七号（一九九九年）
- 三〇 「若者と社会…加害と被害のクロスオーバー」法と心理三卷一号（二〇〇四年）
- 三一 「児童虐待への刑事法的規制の課題（ワークシヨップ）」刑法雑誌四五卷三号（二〇〇六年）
- 三二 「日本、韓国、オーストラリアにおける少年保護政策」甲南大学総合研究所叢書九〇号（二〇〇七年）
- 三三 「討論…社会の安心・安全と公共政策をめぐって」甲南大学総合研究所叢書九四号（二〇〇八年）
- 三四 「犯罪者のインクルージョンと高大接続の法教育の試み」甲南大学総合研究所叢書一〇一号（二〇〇九年）
- 三五 「司法福祉…罪を犯した人への支援の理論と実践【監修】」法律文化社（二〇一三年）
- 三六 「研究者と刑事弁護士…松岡正章名誉教授傘寿祝贺研究会報告」甲南法学五五卷四号（二〇一五年）
- 三七 「現代社会における高齢者の犯罪を考える」月刊福祉九八卷三号（二〇一五年）